

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら横浜吉野町教室		
○保護者評価実施期間	2024年 10月 1日		2024年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	児発33 放デイ24	(回答者数) 児発31 放デイ23
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日		2024年 11月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童を飽きさせないようなプログラムの種類	利用児童に合わせてプログラムの難易度調整をしている。児童に提供したいプログラムやしてほしいことを企画している。自己肯定感上がるプログラムを行ったり、プログラムの中での声掛けを意識している。社会や生活で使えるプログラムの立案。先生が楽しんで盛り上げている。	職員の専門性や興味関心を活かしたプログラムを作る。児童がよりプログラムを楽しみ、ルール理解できるような取り組みを行う。先生がより積極的に参加をしたり盛り上げたりしていく。
2	教室内の清潔維持	毎日清掃や消毒、換気力を入れている。	清潔感の維持を引き続き行っていく。児童の教室の使い方にも反映させていく。
3	利用対応の柔軟さ	保護者との対話を行い、関係性を構築している。事情に合わせて江送迎場所や時間の調整をしている。	保護者との関係性をより深めていく。日々のコミュニケーションをどの職員も様々な保護者とできるようにしていく。依頼があった時には事情も合わせて確認していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者への情報の周知	情報発信の機会の少なさ(契約時のみの説明だと忘れてしまっていることもある)	児童に係る取り組みとして、情報発信やアピールをしていく。
2	支援の質の向上	得意不得意や経験値による差が職員に見られる。支援の基本的な方法や教室内のルールなどがまだ明確ではない。	集団療育を意識し、全体を見れる人員を増やしていく。職員同士の声掛けを増やしていく。教室のルール支援スキルなどをより明確化していく。
3	保護者との関わり	人によってフィードバックの質に差があることがある。FBの仕方、何を優先して伝えていくのかの明確化が足りない。	職員から保護者へ積極的に関わりに行く意識作り。笑顔でお話を聞いたり、時間がある時には余分な話をする時間も作る。教室内のことを一方的に伝えるだけではなく、家や園・学校での様子も聞き取る。入室時のコミュニケーションも意識する。